

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381272

研究課題名(和文)「優れた」キャリア教育実践を可能にする教員養成・研修プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of the teacher education and the training program which enable excellent career education practices

研究代表者

三村 隆男 (Mimura, Takao)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：10324021

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：「優れた」キャリア教育実践を可能にする教員養成・研修プログラムの開発について四つの側面から研究し、成果を得た。一つはキャリア教育実践と教員養成における歴史的研究であり、過去の実践と現代の実践とに通底する理念を析出することができた。二つ目は海外のキャリア教育実践と教員養成の比較研究を行い、「優れた」に近づく方策を提示した。三つ目は実際の現職教員への追跡調査を通し、プログラムの必要な要素を析出できたことである。最後に、現実の教員養成やキャリア教育の携わることで教員養成・研修プログラムの試行版を作成し、キャリア教育を実践する学校の独自性を活かしたプログラム開発を行ったことである。

研究成果の概要(英文)：I studied on "Development of the teacher education and the training program which enable 'excellent' career education practices." Through the historic research on career education practices and teacher education for them, the policies which past and modern practices share was revealed. And the comparative study with the overseas career educational practices and teacher education showed means to develop the 'excellent' teacher education and the 'excellent' training program in Japan. Then a necessary element of a program could be separated out through follow-up research for the teachers who graduated from professional schools for school teachers. Eventually by being engaged in real teacher education and career education practices I developed a trial programs which utilized the characteristics of the school where the career education practices were implemented.

研究分野：キャリア教育

キーワード：キャリア教育 教師のキャリア形成 進路指導 教員養成 教員研修

1. 研究開始当初の背景

これまで「優れた」キャリア教育を実現するために二度の基盤研究(C)により通算5年間、数多くの小学校のキャリア教育実践を調査・研究してきた。その成果は日本進路指導協会『進路指導』の「小学校キャリア教育の実践と指導・助言」の連載を通し、「『優れた』小学校キャリア教育実践」として30校の実践を紹介した。「優れた」の要件には、教育内容や方法、キャリア教育ツール、実践に携わる人的陣容、及び海外のプログラムからの知見など様々なものが挙げられた。また、「優れたキャリア教育実践」についてのアンケート調査では、「教師の共通理解」から始まり、実践する教師や学校の教員組織そのものに言及する回答も多く、「『優れた』小学校キャリア教育実践」のもっとも重要な要件として「教師のキャリア教育実践力」との結論に至った。

ちなみに、中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」では、教員の養成・研修についてこれまでより一歩踏み込んだ議論がされている。修士レベル化として総体的な教師の実践力を挙げることも必要であるが、キャリア教育など個別の教育実践を実施する際の、教員研修プログラムを開発することは、総体的なレベルアップはカバーできなくとも個別分野における力量形成を可能にすると考え、以下の研究目的を設定した。

2. 研究の目的

「優れた」キャリア教育実践の開発と同時にそれを実施する教員養成・研修プログラム開発について研究することを目的とした。

具体的には、キャリア教育を実践する教員養成・研修プログラムの在り方の研究、内外における教員養成・研修プログラム収集、さらにはそれらを基にしたプログラムの開発が考えられる。これまでの研究対象は主に小学校のキャリア教育であったが、本研究では小学校に接続する中学校、さらには高等学校のキャリア教育実践のための教員の養成・研修プログラムへと拡大して開発をおこなう。教員の養成・研修プログラムについては、教員養成段階の学部の教職課程や教職大学院等のキャリア教育に関わる授業から、個別のキャリア教育実践のための教員研修プログラムまで幅広く扱うこととする。

キャリア教育実践に携わることで、キャリア形成への意識が高まり、教師自身が自らのキャリアを省察することにつながり、その結果、教師としてのキャリア形成への意識が高まり、「優れた」実践を可能とする「優れた」教師を生み出すことにつながるからである。この視点を研究の背景に据える。

3. 研究の方法

研究の方法として以下の6つの方法を講じた。

- (1) わが国で求められるキャリア教育の在り方についての研究
- (2) 優れたキャリア教育実践の整理及び新たな実践の追加
- (3) キャリア教育実践のための教員養成・研修プログラムについての検討
- (4) 海外調査研究
- (5) 教職大学院における修了者追跡調査及びシンポジウム開催
- (6) 研究成果報告書の発行

4. 研究成果

それぞれ研究方法における研究成果を示す。

(1) わが国で求められるキャリア教育の在り方についての研究：現行の学習指導要領、中央教育審議会答申「今後のキャリア教育・職業教育の在り方について」、「新教育振興基本計画」などを精査することで今後のキャリア教育実践の方向性を明確にした。さらに、中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」をもとに、プログラム展開に求められる教員の資質や能力について整理を行った。

(2) 優れたキャリア教育実践の整理及び新たな実践の追加：既存の「優れた」キャリア教育実践に加え、新たにコミュニティ・スクールを基盤にキャリア教育実践に取り組んだ新潟県上越市のキャリア教育実践にアクションリサーチに入り、その実践の「優れた」様子を論文として示すことができた。この成果は、日本特別活動学会及び日本キャリア教育学会における学会発表、及び平成27年度早稲田大学大学院教職研究科紀要第8巻の査読論文として投稿し、採択された。

(3) キャリア教育実践のための教員養成・研修プログラムについての検討：教育実践を想定した教員養成・研修プログラムについて、総体的、個別的双方のプログラムについて検討を行い、その規模、方法、内容などについて整理を行い、実際のプログラム開発を具体的に進めた。国内のみならず、「4. 海外調査研究」に示した海外調査研究における知見もその材料として加えた。

(4) 海外調査研究：

アメリカ合唱国カリフォルニア州のソノマ州立大学において、キャリア教育において生徒に求める能力基準を示した Common Core State Standard、及び教師教育の新たなプログラムである PACT(Performance Assessment for California Teachers)について訪問調査を行った。さらに、小学校用の Engineering is Elementary プログラムや中高生用の Project Lead the Way プログラムなどに併設されている教師研修プログラムの実態の調査・研究を実施した。

英国のロンドン大学 Institute of

Education において、学部段階の教員養成、PGCE (Postgraduate Certificate in Education)、学校を基盤とした教員養成及び Teach First を調査対象として、教員養成・研修プログラムの在り方について成果をまとめた。

シンガポールにおける教員養成を一手に担う NIE (National Institute of Education) 及び教員研修を司る MOE (Ministry of Education) の Academy of Singapore Teachers の訪問調査を通し、集約的な教員養成・研修を学んだ。一方、不適応などの理由で学習面、就労面に困難を感じている生徒に対しキャリア教育実践を行なっている教育機関のひとつ Institute for Technical Education を訪問することで、養成された教師が、こうした困難に直面した生徒への教育にキャリア形成の視点から取り組んでいる様子を知り、児童生徒のキャリア形成の視点から行われる養成・研修の重要性を学んだ。

インドネシア教育大学及び韓国青少年政策研究所 (NYPI) 『第 1 回東北アジア青少年フォーラム』で講演を行い、教員養成と教師のキャリア教育実践の関連について参加者と論を深めた。

(5) 教職大学院における修了者追跡調査及びシンポジウム開催を通じた教員養成プログラムにおける教師の発達指標の開発

教職大学院修了者対象の追跡調査を二度実施した。平成 26 年度は、質問紙による定量的調査を、「現在のプロフィール」「教職大学院カリキュラムに対する意見」「教職大学院の学修が現任校の業務にどのように活かされているか」「今後の教師キャリアにおけるキャリア・プランニング」の四つに質問項目に類型化して実施した。平成 27 年度は、平成 26 年度の追跡調査結果に基づき、訪問による定性的調査の実施であった。目的は、教職研究科での学修の成果が現場でどのように活かされているかを、修了者及び勤務校管理職を対象に、活かされている具体的内容及び管理職の評価を直接聞き取るものであった。対象の 17 名からは所期の目的を達成する成果を得られた。これらの調査結果については編著者として二冊の報告書を発行することができた。

二度のシンポジウムの開催：平成 27 年度は追跡調査の回答をもとに 3 名の修了者によるシンポジウム「学び続ける教員像を創出するカリキュラムの構造化の試み キャリア教育の実践研究を中核とした修了者との連携」とのタイトルで、平成 26 年度に開催された日本教職大学院協会研究大会「実践研究成果公開フォーラム」の場をかりて実施した。登壇した修了者は、自らの教師キャリアをステフィら (B. E. Steffy et al, 2000) による教師のキャリア形成の 6 つの局面に準拠し、教職大学院の学修の成果と課題を現任校での業務及びその後の教師としてのキャ

リア形成に照射し発表した。平成 27 年度は追跡調査結果をさらに深めるため、教育委員会指導主事、私立高校のベテラン教員、新人の中学校教員が、直面した困難を乗り越えるにあたって教職大学院の学修がどのように機能したかを中心としたシンポジウム「教師というキャリア - 学び続ける教員は困難をどう乗り越えるか - 」を開催した。それぞれの教師のキャリア形成の局面において、養成・研修における学修が優れたキャリア教育実践に影響を与える過程、及び困難への認識と対応についての知見を得ることができた。

発達指標の開発

追跡調査の結果及びシンポジウムの成果、さらには、諸外国における養成・研修段階におけるキャリア形成の指標などを参考に「教師の発達局面と直面する課題及び課題への対応能力・態度 (未定稿)」を作成した。作成に当っては、本研究を引き継ぐ平成 28 年度からの基盤研究 (C)「教師のキャリアステージに応じたキャリア発達プログラムの開発」での更なる吟味を想定して未定稿とした。

(6) 研究成果報告書の発行

各年度の研究成果を以下の冊子を毎年発行することで公開してきた。

早稲田キャリア教育研究第 5 巻 (平成 26 年 3 月発行)、平成 26 年早稲田キャリア教育研究第 6 巻 (平成 27 年 3 月発行)、平成 27 年早稲田キャリア教育研究第 7 巻 (平成 28 年 3 月発行)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 7 件)

Takao Mimura, Vocational Guidance, Career Guidance, and Career Education phases in Japan (査読付) 早稲田大学大学院教職研究科紀要 第 8 号, 2016, 19-34.

三村隆男、京免徹雄、宮古紀宏、コミュニティ・スクールにおける地域資源を活かした特別活動の展開 (査読付) 早稲田大学大学院教職研究科紀要 第 8 号, 2016, 55-66.

三村隆男、金鉉哲、日本と韓国におけるキャリア教育の展開、進路指導 89(1)、2016, 3-20.

Takao Mimura, Development Process Career Education in Japan, Proceedings of the International Joint Seminar on Improving Learning strategy for Career Achievement, Adi Buana University Press, 2015, 1-9.

三村隆男、石井克己、深沢享史、鈴木晴香、学び続ける教員像を創出するカリキュラムの構造化の試み キャリア教育の実践研究

を中核とした修了者との連携、平成 26 年度日本教職大学院協会研究大会実践研究成果公開フォーラム、2014, 19-29.

三村隆男、石井克己、伊藤要輔、他 4 名、大学における「キャリア教育のプログラム開発」と実践、進路指導第 87 巻第 1 号、日本進路指導協会、2014, 3-22.

三村隆男、生き方につながる楽しい授業、全国公立学校教頭会、学校運営第 55 巻第 4 号、2013, 6-10.

〔学会発表〕(計 5 件)

Takao Mimura, Vocational Guidance, Career Guidance, Career Education in Japan、IAEVG 国際キャリア教育学会、2015 年 9 月 18 日、つくば国際会議場。

三村隆男、「日本のキャリア教育」、NYPI(National Youth Policy Institute) 第一回東北亜青少年フォーラム(韓国)、2015 年、3 月 29 日、NYPI。

Takao Mimura, Development Process Career Education in Japan、第 10 回 ARACD(アジアキャリア発達学会)、2014 年 9 月 21 日、Garut in Indonesia.

Takao Mimura, Darryl T. Yagi, 4C's of Career Counseling in Japan; Addressing Human and/or Citizen Right、IAEVG 国際キャリア教育学会、2013 年 9 月 26 日、the Corum - Congress Hall-, Montpellier.

三村隆男、京免徹雄、宮古紀宏、コミュニティ・スクールにおける地域人材を活用した学校づくり 上越市学校運営協議会の取組による特別活動への影響に着目して、日本特別活動学会第 22 回大会、2013 年 8 月 18 日、鎌倉女子大学。

〔図書〕(計 5 件)

三村隆男(編著) 早稲田キャリア教育研究第 7 巻、2016, 全 95 頁。

三村隆男(編著) 早稲田大学大学院教職研究科修了者追跡調査報告書 2、2016, 全 80 頁。

三村隆男(編著) 早稲田キャリア教育研究第 6 巻、2015, 全 112 頁。

三村隆男(編著) 早稲田大学大学院教職研究科修了者追跡調査報告書 1、2015, 全 52 頁。

三村隆男(編著) 早稲田キャリア教育研究第 5 巻、2014, 全 93 頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三村 隆男(Mimura, Takao)
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授
研究者番号：10324021

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：